

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22226015	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	画期的な海底鉱物資源としての含金金属堆積物の包括的研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	加藤 泰浩 (東京大学・大学院工学系研究科・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A- 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、深海海底含金金属堆積物（レアアース）の分布状況（金属分析、含有率、存在状態など）の調査研究であり、我が国の資源確保の上からも重要な調査研究があり、順調に研究が進んでいると考えられる。

試料サンプリング調査は JAMSTEC との共同研究としても進められ、新規の堆積物サンプリングが可能となり、新たなレアアース堆積物を発見する成果も上げている。今後も順調に調査海域の拡大と堆積物サンプリングの分析数の増加も期待でき、調査研究成果が得られるだろう。新たな調査海域でのサンプリングと分析結果によっては、期待以上の調査研究成果が上がる可能性も高いと考えられる。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	
A+	<p>当初目標に対し、期待以上の成果があった。</p> <p>具体的には、レアアースを高濃度で含む「レアアース泥」が太平洋の広域とインド洋の東部に分布していることを発見するとともに、南鳥島の排他的経済水域（EEZ）においても「超高濃度レアアース泥」の存在を確認している。レアアース泥は2013年に閣議決定された新しい海洋基本計画にも組み込まれ、実開発に向けた取組が産学官で進められている。</p> <p>以上の理由から、本研究の目的である「レアアース泥の分布状況と、レアアースの含有量及び存在条件の包括的把握」、「資源ポテンシャル評価と実開発に向けた有望海域の選定」、「開発へ向けた積極的な政策提言」について、期待以上の成果があったと評価できる。</p>